

「てほしい」はどのように用いられているか

How is *-te hosii* used in spoken/written Japanese?

高 梨 信 乃
Shino Takanashi

This paper discusses *-te hosii* in Japanese. The usage of *-te hosii* is usually divided into three types such as 1) a request, 2) a desire for someone to take action, 3) a desire for a situation/event to occur. We investigate some corpuses of spoken/written Japanese in order to clarify how *-te hosii* is actually used. As a result, *-te hosii* is used in many different ways, not only in spoken language and written language, but it also depends on the type of texts that are written, such as newspapers, magazines, Yahoo blogs and Yahoo Chie-bukuro. In some cases *-te hosii* is used to give advice rather than making a request. It also is sometimes used to imply that the speaker/writer is dissatisfied with the situation. This demonstrates that *-te hosii* has various meanings rather than how it is usually perceived.

キーワード

-te hosii, request, desire, spoken language, written language

1. はじめに

本稿では、希望を表す表現「てほしい」を取り上げる。

- (1) 寒い冬にはもうあきあきして来た。早く春がきてほしい。(グループ・ジャマシイ 1998)
- (2) この展覧会にはたくさんの人に来てほしい。(同上)
- (3) 客：プレゼントなので、リボンをかけてほしいんですが。(同上)

「てほしい」の用法は、3つに分けて論じるのが一般的であると思われる。(1) のようにある事態が実現することに対する希望を表すもの（ここでは〈無意志の事態実現の希望〉と呼ぶ）、(2) のように他者の行為が実現することに対する希望を表すもの（〈他者行為実現の希望〉と呼ぶ）、さらに (3) のような〈依頼〉である。

〈依頼〉について、グループ・ジャマシイ（1998）は「「聞き手にある行動をしてもらいたい」という話し手の願望を述べて間接的に依頼を表す表現（p.528）」、日本語記述文法研究会（2003）は「行為の実現への希望を聞き手に伝えることによって依頼を行うもの（p.75）」としている。

つまり、〈他者行為実現の希望〉の「他者」が目の前の聞き手である場合に〈依頼〉となるということである。

日本語教育においても「てほしい」は依頼表現の一つとして取り上げられることがある。しかし、ここで注目したいのは「てほしい」について教科書や参考書にみられる次のような説明である。

(4) 相手の行為について用いると、依頼・指示の表現になりますが、そのままでは直接的すぎるので、「のですが／んですが」などをつけて使われることが多いです。

④ すみません、ちょっと手伝ってほしいんですが。

(『みんなの日本語中級I 教え方の手引き』)

(5) 目上の人や敬意を払うべき人に対して直接使うと、押しつけがましく聞こえたり失礼な感じを与えたりする。(同上)

(6) (5) 君にこの仕事をやってほしいんだが。

(中略) (5) は男性が使う表現で、高圧的な感じがする。

(グループ・ジャマシイ 1998)

(4)～(6) は直感的には妥当な指摘のように感じられる。しかし、そうであるならば、失礼もしくは高圧的な感じになる可能性のある「てほしい」を依頼表現の一つとして教えるのが適切なのかという疑問が生じる。

2. 先行研究と本稿の目的

ここで「てほしい」についての先行研究を概観しておく。

まず、宮川(1998)、三井(2007)は、通時的な観点から考察を行い、「てほしい」が関西方言を基盤とし、昭和の時代に共通語として普及・定着したとみられることを指摘している。また、工藤(2005)は、「ここ3、40年ほどの間に〈無意志的〉な出来事にも多く用いられるようになってきた」とし、本稿でいう〈無意志的事態実現の希望〉が比較的新しい用法であるという見解を述べている。

次に、類義表現「てもらいたい」との違いについて考察した研究がある。由井(1995)と宮川(1998)は〈はたらきかけ性〉の強さをめぐって「てほしい」と「てもらいたい」を比較している。

米澤(2015)は、新聞における「てほしい」と「てもらいたい」の用いられ方を調査し、1) 「てもらいたい」に比べ「てほしい」が圧倒的に多く用いられている、2) いずれの形式も、聞き手=動作主である例はわずかで依頼的用法は少ない、3) いずれの形式も、動作主は不特定多数の人々であり明示されないことが多いという3点を指摘している。

さらに、山西(2011)は、「てほしい」と共起して動作主を表示する格助詞について考察し、

「てほしい」はどのように用いられているか（高梨）

伝統的な「に」のほか、「が」も一定の制約のもとで使用されていることを指摘している。

以上のように、「てほしい」についての先行研究は少なくはない。しかし、現代日本語における「てほしい」の使用実態をコーパスなどの大量の用例から明らかにしようとする研究は、米澤（2015）の新聞における用例の研究のほかには見当たらない。「てほしい」については、1. で指摘したような教え方の問題を議論する以前に、実際の運用においてどのように用いられているかの記述が不足していると言わざるを得ないだろう。

以上のような問題意識から、本稿は話し言葉と書き言葉のコーパスを用いて、「てほしい」の使用実態を明らかにすることを目的とする。

「てほしい」の用法については、まずは1. でみた3分類に基づいて考察していくことにする。3つの用法間の関係は図1のように捉えることができるだろう。

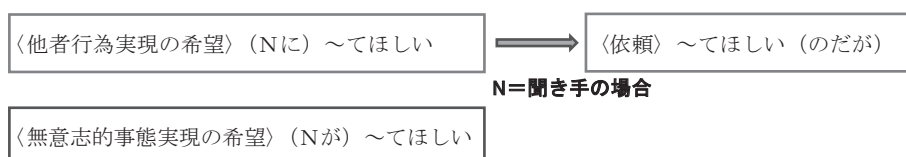


図1 「てほしい」の3つの用法

なお、以下では、〈他者行為実現の希望〉を〈他者行為〉、〈無意志的事態実現の希望〉を〈無意志的事態〉と略して示す。

次節からは、図1の用法分類に基づき、「てほしい」の使用実態をみていく。〈依頼〉〈他者行為〉〈無意志的事態〉の各用法は、話し言葉および書き言葉においてどのくらい、どのように用いられているのだろうか。また、〈依頼〉に関しては、教科書や参考書に記述されるように、「～のです／のですが」などを付加して用いられることが多いのだろうか。

3. 話し言葉のコーパスによる調査

3.1 調査方法

まず、話し言葉についてみる。話し言葉コーパスとしては、「日本語日常会話コーパス・モニター公開版」（以下、「日常」）、「名大会話コーパス」（以下、「名大」）、「現日研・職場談話コーパス」（以下、「職場」）の3つのコーパスを用いる。「日常」は、「さまざまな場面における自然な日常会話をバランスよく収めたコーパス」として整備中のコーパスであり、「名大」は、日本語母語話者同士の雑談会話が文字化されたもの、「職場」は、さまざまな職場での打ち合わせ・会議や休憩時間における自然談話が文字化されたものである。

これら3つのコーパスを対象に、検索ツール「中納言」の短単位検索を用いた。検索条件は、品詞「動詞」をキーとし、後方共起（キーから2語）に語彙素「欲しい」を指定した。

検索の結果、「日常」で70件、「名大」で120件、「職場」で23件がヒットしたが、そのうち対象外となるもの（「こういうのほしい」など）が「日常」に1件、「名大」に5件含まれていたため、それらを除外した。したがって、「てほしい」の用例は、「日常」で69件、「名大」で115件、「職場」で23件得られたことになる。

3.2 結果と考察

3つのコーパスごとに得られた用例を、〈依頼〉〈他者行為〉〈無意志的事態〉の3用法および用い方によって分類・集計したものを、表1と図2に示す。用い方は、「てほしい」が現れた位置（主節末かそれ以外か）によって二分したうえで、さらに言い切り、「～のだ」などいくつかのケースに分けた¹⁾。

表1・図2からわかるように、3つのコーパスのうち「職場」のみ〈依頼〉の割合が高く、「名大」と「日常」では〈他者行為〉が最も多い。(7)(8)に〈他者行為〉の用例を挙げる。

(7) だから、その300万が私にはむだじゃなかったなあと、今感謝してますよね。

うちの息子もそういう方と出会ってほしいもんだわ。# いや、別に独りなら独りでいいんですけどねえ、やっぱり、年を取ってからどうなのかしらって。(名大・友人)

(8) だってもう1回あの一、発表と同じぐらいの時間をかけてさ一、調べてさ一、レポート出すなんて一、大変だもん。# うん # うん # うん # ねえ。# もう発表した人は、なしにしてほしいよね。# ねー # そうするのはだめなのかな。# (名大・同級生)

(9) のような〈無意志的事態〉はいずれのコーパスにおいても少ない。

(9) でもとにかく早く戦争終わってくれる、終わってほしいな。# なんかね、すごい嫌だ。
困るね。(名大・友人)

なお、〈他者行為〉について観察されるのは、単にその行為の実現への希望を表すというよりも、それが実現していないことに対する不満が強く感じられる(10)のような用例がみられることである。

(10) 接着剤みたいな # 付いてた # うーん # まあ安いから仕方ないけどね # うーん # そうだよ # 匠の仕事してほしいよね # そんなのニトリに求めちゃだめだよ # うーん # (日常・家族・相談)

「てほしい」が用いられる場面によって生じるニュアンスとして注目しておきたい。

さて、〈依頼〉は、「職場」では60%を占めるものの、「日常」では33%、「名大」では20%である。また、用い方に注目すると、いずれのコーパスにおいても引用として用いられているものが多いことがわかる。〈依頼〉のうち「職場」で80%近く、「名大」で70%近く、「日常」でも50%以上が(11)のような引用である。

(11) で、連絡したら、まあ、すごく人手不足なんだって。# うんうん # で、11月から来てほしいって言われて、面接して、ま、面接ってほんとにカたちだけのもの。# (名大・

「てほしい」はどのように用いられているか（高梨）

表1 3つのコーパスにおける「てほしい」の用法と使い方

使い方	「名大」			「日常」			「職場」			
	依頼	他者行為	無意志的事態	依頼	他者行為	無意志的事態	依頼	他者行為	無意志的事態	
主節末	言い切り	2	32	5	8	2	2	2	4	1
	～のだ	2	3	0	2	1	0	0	1	0
	～のだが	3	4	0	1	0	0	1	0	0
	M付加	0	6	0	0	4	0	0	1	0
	その他付加	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	否定	0	1	0	0	10	0	0	0	0
	過去	0	5	1	0	6	0	0	0	0
	疑問	0	3	1	0	0	0	0	0	0
以外	引用	16	13	0	12	12	1	11	0	0
	他従属節	0	16	1	0	8	0	0	2	0
計		23	84	8	23	43	3	14	8	1
		115			69			23		

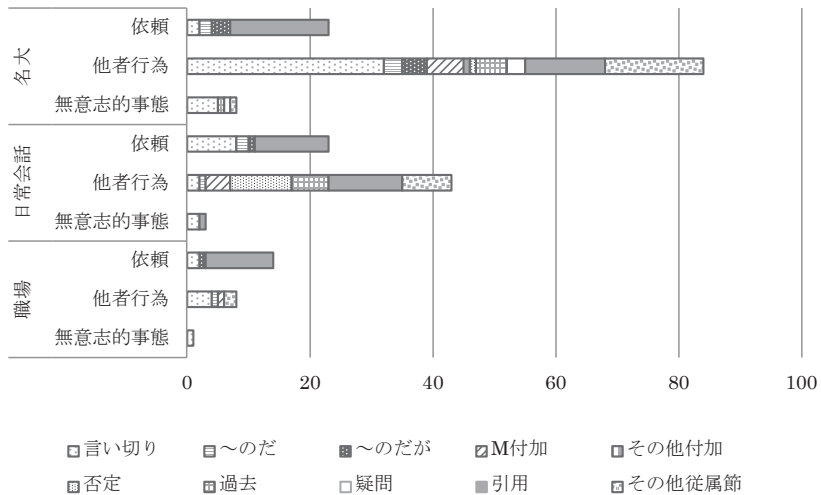


図2 3つのコーパスにおける「てほしい」の用法と使い方

友人)

一方、〈依頼〉のうち目の前の聞き手に対して用いられているものに限ると、どのコーパスでも少なく、「日常」で11件（全体の16%）、「職場」で3件（同13%）、「名大」では7件（同6%）に過ぎないことがわかった。さらにこれらを合わせた21件の使い方をみると、(12) (13) のような言い切りが12件で最も多い。一方、(14) のような「～のだ」は4件、(15) のような「～のだが」は5件であった。

(12) 結構これあれでしょ # 厚みがあるから長いこう出てるフックがいいよね # そう # あ

#でも二つ貼ってほしい #ケッ #そうそうそうそう #パパ #あ #二つ貼ってほしい
#二つ (日常・家族・雑談)

(13) 置場がないからね、あの一、ただ、ま一、できるだけ早く持っていくことは考えてほしい。
い。#それからあとは、荷札を必ずつけること。#だれのものなのかね。

(職場・ミーティング)

(14) あ、そうだ。#あ? #その前にねえ、あの、サークルKか、ココに寄ってほしいの。
#うん #とりあえず、ずっとまっすぐ行っちゃってください。 (名大・友人)

(15) 私あのさ一、ヒョウ柄のやつ、あるんだけど1本、1個。うん、うんアムラーとかい
うやつでさ。小4かなんかのときに買ったやつ。あーれほんと着ないからさ、もうF076
もう似合うから、持って帰ってほしいんだけど。うん、そうしたら。 (名大・友人)

以上、話し言葉コーパスに現れた「てほしい」をみた。

3用法のうちで〈依頼〉が占める割合は、会議や打ち合わせでの会話を多く含む「職場」がもっとも大きく、雑談会話である「名大」がもっとも小さい。一般に依頼という行為は雑談よりも会議や打ち合わせにおいてより頻繁になされると思われることから、これはコーパスの性質の違いによるものと考えられる。

しかし、いずれのコーパスにおいても、引用ではなく目の前の聞き手への〈依頼〉として用いられている「てほしい」の割合は小さいということが注目される。さらに、それらにおいては言い切りがむしろ多く、「~のだ」「~のだが」の形での使用は少なかった。本調査の限られた用例数からいえることは限られているが、教科書などにみられる「言い切りの直接さを避けるために「~のだ」「~のだが」の形で用いられる」という記述は、使用実態と合致していない可能性がある。

次の4. では、書き言葉に目を転じて「てほしい」の使用実態をみていくことにする。

4. BCCWJ (現代日本語書き言葉均衡コーパス) による調査

4.1 調査方法

書き言葉のコーパスとしては、「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」を用いる。BCCWJの全データを対象とし、話し言葉と同様に検索ツール「中納言」の短単位検索を用いた。検索条件は、品詞「動詞」をキーとし、後方共起(キーから2語)に語彙素「欲しい」を指定した。

検索の結果、12,588件がヒットした。目視によって確認された対象外となるもの146件を除き、得られた「てほしい」は12,442件である²⁾。

「てほしい」はどのように用いられているか（高梨）

4.2 結果の概要

本稿では、用例の現れた文章の種類分けについては、野田編（2016）にならう。具体的には、BCCWJのレジスタを基本としつつ、そのうちの「書籍」と「ベストセラー」を合わせたうえで「文学」と「文学以外」に分類しなおした。結果、計12に分類することになるが、これを便宜上〈ジャンル〉と呼ぶことにする（BCCWJの「ジャンル」とは異なる）。表2が「てほしい」の〈ジャンル〉別の出現状況である。〈ジャンル〉によってデータ量（総語数）が異なるため、100万語単位での出現数（Per Million Words、略号PMW）も示す³⁾。

表2 BCCWJにおける「てほしい」の〈ジャンル〉別出現状況

〈ジャンル〉	総語数	「てほしい」	
		出現数	PMW
文学	20139268	2150	106.8
文学以外	42533142	3728	87.6
雑誌	4444492	636	143.1
新聞	1370233	275	200.7
白書	4882812	39	8.0
広報誌	3755161	341	90.8
法律	1079146	0	0.0
国会会議録	5102469	476	93.3
教科書	928448	24	25.8
韻文	225273	3	13.3
知恵袋	10256877	2424	236.3
ブログ	10194143	2346	230.1
計	104911464	12442	118.6

表3からわかるように、「てほしい」は法律以外のすべての〈ジャンル〉に現れており、文体の硬軟を問わず広く用いられているといえるだろう。出現率は知恵袋とブログが同程度で最も高く、次いで新聞、雑誌、文学、国会会議録の順となっている。

これら出現率上位の〈ジャンル〉において、「てほしい」はどのように用いられているのだろうか。まずは、用い方別の出現数を表3と図3に示す。

表3 BCCWJの6つの〈ジャンル〉における「てほしい」の用い方別の出現数

用い方	形式例	知恵袋	ブログ	新聞	雑誌	文学	国会	
主節末	言い切り	言い切り、終助詞付加	793	1034	80	257	51	45
	～のだ		44	44	1	21	22	11
	～のだが		137	23	0	0	1	6
	M付加	～ものだ、～らしい	89	202	2	23	10	3
	その他付加	～がる、～だけ	13	14	0	1	1	0
	否定		61	35	0	7	9	0
	過去		55	141	2	15	23	0
	疑問		75	6	0	7	4	0
以外	引用	～と、～という N	721	504	175	214	95	387
	他従属節	～から、～のに、～ N	436	343	15	91	20	24
計			2424	2346	275	636	236	476

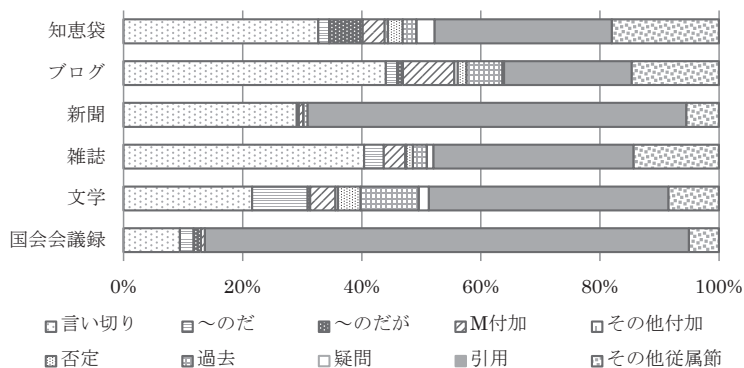


図3 BCCWJの6つの〈ジャンル〉における「てほしい」の用い方別の割合

6つの〈ジャンル〉を比べると、まず「てほしい」の現れている位置に違いがみられる。知恵袋、ブログ、雑誌、文学では主節末での使用が5割から6割程度である。一方、新聞と国会会議録では主節末以外、特に引用での使用が目立って多い。その他、主節末における言い切り、「～のだ」などの割合にも〈ジャンル〉による違いがみられる。

それぞれの〈ジャンル〉がもつ性格は、「てほしい」の使用のあり方に影響を与えていると思われるが、それを明らかにするには個々の用例を観察する必要がある。

以下では、出現率が最も高い知恵袋、ブログ、新聞、雑誌における「てほしい」をみていく。特に、主節末に現れたものにしぼって詳しくみていくことにしたい。

知恵袋、ブログ、新聞、雑誌の4つの〈ジャンル〉において、主節末に言い切り、「～のだ」、「～のだが」、モダリティ形式付加の形で現れた「てほしい」を用法別に整理したものが表4である。

「てほしい」はどのように用いられているか（高梨）

表4 4つの〈ジャンル〉の主節末言い切り等における「てほしい」の用法別の出現数

	知恵袋				ブログ			
	依頼	他者行為	無意志的事態	計	依頼	他者行為	無意志的事態	計
言い切り	207	577	9	793	68	900	66	1034
～のだ	13	30	1	44	13	28	3	44
～のだが	53	82	2	137	3	18	2	23
M付加	4	85	0	89	7	182	13	202
計	277	774	12	1063	91	1128	84	1303
	新聞				雑誌			
	依頼	他者行為	無意志的事態	計	依頼	他者行為	無意志的事態	計
言い切り	5	69	6	80	143	107	7	257
～のだ	0	1	0	1	11	8	2	21
～のだが	0	0	0	0	0	0	0	0
M付加	0	2	0	2	5	18	0	23
計	5	72	6	83	159	133	9	301

4つの〈ジャンル〉はデータ量が異なり、出現数にも大きな差があるが、それぞれにおける用法と用い方の内訳を比較することはできるだろう。以下、各〈ジャンル〉における内訳を図4～7に示す。

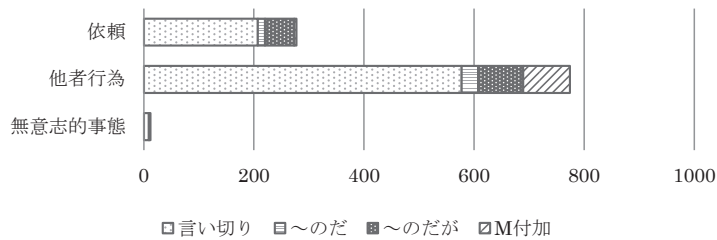


図4 知恵袋の主文末言い切り等における「てほしい」の用法別の出現数

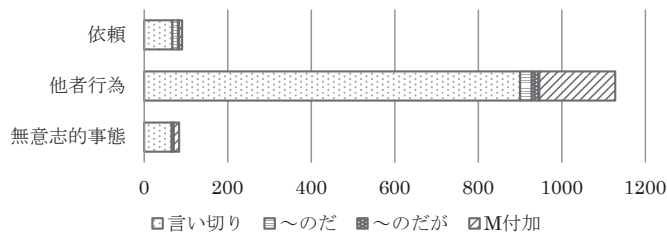


図5 ブログの主文末言い切り等における「てほしい」の用法別の出現数

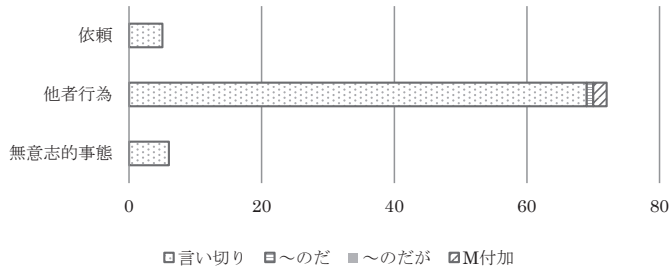


図6 新聞の主文末言い切り等における「てほしい」の用法別の出現数

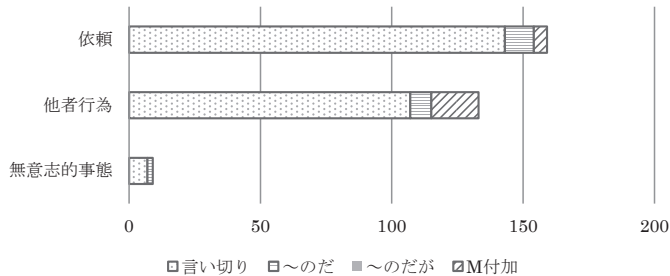


図7 雑誌の主文末言い切り等における「てほしい」の用法別の出現数

表4および図4～7から全般的な傾向をみる。まず、用法に注目すると、知恵袋、ブログ、新聞では〈他者行為〉が多い。特に、ブログと新聞では90%近くを〈他者行為〉が占めている。一方、雑誌では〈依頼〉が最も多く、50%強である。〈無意志的事態〉はどの〈ジャンル〉でもごくわずかしみられない。次に、用い方をみると、全体に言い切りでの使用が多く、特に、新聞ではほとんどが言い切りである。〈依頼〉における「~のだ」「~のだが」は知恵袋や雑誌で多少みられるが、やはり多いとはいえない。

以上、出現数だけみれば、〈ジャンル〉間の異なりよりも共通点のほうが目につくようである。しかし、実際に「てほしい」の使用のあり方には〈ジャンル〉ごとの特徴はないのだろうか。以下では、〈ジャンル〉ごとに用例を観察しながら詳しくみていきたい。

4.3 知恵袋

知恵袋で最も多いのは、〈他者行為〉である。(16)(17)(18)に用例を挙げる。

(16) Q: 上原が大リーグに行く日も近いですか? A: 近いと思いますよ。行って欲しいですね。他の選手もね。

(17) 昔と比べて 治りやすくなった病気ですから # あせらず ゆっくりと治してほしいですね。また元気な姿を見たいです。

(18) Q: 混浴で平気でタオルを湯船に入れる行為を軽犯罪法で取り締まることって出来ないんでしょうかね? A: マナーも守れないなら温泉入浴はやめて欲しいですね。(後略)

「てほしい」はどのように用いられているか（高梨）

このうち（18）は、他者の行為が実現することへの希望というより、むしろ実現していないことへの不満の表明に近づいている。話し言葉コーパスでみられた（10）と同種のものと考えられるこのような用例が、知恵袋においても少なからずみられる。

次に、〈依頼〉の用例をみよう。知恵袋における〈依頼〉には、質問者がまさに質問する際に用いられた（19）（20）のようなものが多くみられる。

（19）Q：コロッケを食べたいのですが、ダンナは油っこいものを控えるようにお医者さんから言われてます。油で揚げる以外の調理方法でコロッケを作る方法があれば教えてくださいです。

（20）Q：キャバクラとかに働いてるお姉さん又は、美容師さんにお聞きます!! そのかわい〜い☆ゴージャスヘアの作り方教えてください!! あと、メイクの仕方を教えてください!!

一方、〈依頼〉として数えている用例のなかには、これらとは性格の異なる用例もみられる。（21）（22）は、読み手への行為の要求にはちがいないが、依頼（書き手にとって有益な行為の要求）というよりも、むしろ勧め（読み手にとって有益な行為の要求）というべきものである。

（21）Q：小さなお子さんやお孫さんのいる方で、お勧めの絵本がありましたら、是非、教えてください。A：（中略）あとは定番ですが『ぐりとぐら』かな？福音館書店の本は良い本が多いのでぜひ読んであげて欲しいですね♪

（22）Q：デートに誘っただけなのですが、告白した方がいいですか？告白するならどうゆうタイミングですればいいですか？ A：告白しましょう！（中略）個人的にはうやむや遠まわしに言うより素直に正直な気持ちを伝えてほしいな。誠実感ある告白だったら好感度アップだよ。

（21）（22）のような勧めに近い用例は、典型的な依頼の用例とは異なり、質問への回答者のほうに多くみられる。

このように情報を求める側（質問者）と情報を提供する側（回答者）という立場の違いと「てほしい」が果たす機能の微妙な違いに関連がみられるのは興味深いことである。

なお、（23）のような〈無意志的事態〉の用例はごくわずかであった。

（23）Q：今日も暑くなります？ A：なりそうです。この時間からすでに暑い。お盆過ぎなので、すこしは、気温も下がって欲しいのですが。

4.4 ブログ

ブログでは〈他者行為〉が突出して多い。用例を（24）（25）に挙げる。

（24）こんな試みを文科省と各種スポーツ団体がタイアップして、全国でやってほしいですね。

（25）安馬は十一勝で相撲内容が良ければ昇進できると思います。して欲しいです！

(24) (25) は、他者の行為の実現への希望を表しているといえるものである。一方、〈他者行為〉の用例の中には、(26)～(29) のように希望というより不満が強く感じられるものもある。

(26) って理由で最近、キャンセルになりました。パンフレットも用意して配った僕は道化者。日帰りでもボツ。。行く気がないなら始めから断ってほしいな。

(27) 人が歪む理由を短絡的に考えるのは愚かな行為ほんと、殺人事件がおきたからといって～何かを悪者に仕立て上げようとするのはやめてほしいです。

(28) なんて、罪のない人の命をこんなむごいやり方で奪うなんていう事が出来るのでしよう。生きるのに疲れた、……なんて。甘ったれるのもいい加減にして欲しいです。

(29) 今日も病児保育満室でまたまた休みです。カンベンしてほしいです、娘。。

(26)～(29) のような用例は、話し言葉のコーパスや知恵袋にもみられたが、ブログでは目立って多い。「やめてほしい」「いい加減にしてほしい」「勘弁してほしい」といった表現が多数観察される。書き手の感情が率直に吐露されることが多いブログという文章の性格を反映し、希望する〈他者行為〉が実現していない現状に対する不満を表出するこのような用例が多くみられるものと考えられる。

次に、〈依頼〉をみる。ブログでは〈依頼〉は多くはない。しかし、注目されるのは、(30)～(31) のような依頼というより勧めに近いタイプのものがここでも少なからずみられることである。

(30) そして、ここだけのとっておき情報だが、家庭に余っているギョーザのタレやラー油などをタラリとかけてみてほしい。意外や意外、絶妙なマッチングなのであった。

(31) 君はわかるはずさ。君の中の強い信念を。。。だからどうか、今と言う時期だけを見ないで、もっと自分に自信を持って生きて欲しい。

なお、(32) のような〈無意志的事態〉の用例はごくわずかであった。

(32) 当地は台風十三号の影響は、ほとんど見られず曇っていますが、一滴の雨も降らず空は一部青空が見える状態です。このまま穏やかに過ぎてほしいものです。

4.5 新聞

新聞における「てほしい」については、2. でみたように、米澤 (2015) による「依頼的用法は少ない」「動作主は不特定多数の人々であり、明示されないことが多い」という指摘がある。

本調査でも、抽出した用例 83 例のうち 72 例が (33) (34) のような〈他者行為〉であり、突出して多かった。

(33) 容疑者がいつ、どのような経緯で被害者を標的とするに至ったか。警察は、事件の背後を徹底的に解明してほしい。(神戸新聞)

(34) アマチュア時代とプロ化後とでは、音の輝きも表現の幅もぐっと向上しました。プロ

「てほしい」はどのように用いられているか（高梨）

の演奏家として何をすればよいか。団員それぞれが真剣に考え、誇りを持ち続けてほしいですね。（西日本新聞）

書き手が実現を希望する行為の主体は（33）の「警察は」、（34）の「団員それぞれが」のように示されている場合も少なくない。しかし、これらのように、特定の個人ではなく、組織・集団などある属性をもつ人々の行為の実現を希望するものが大半であり、米澤（2015）の指摘と合致する結果といえる。新聞の、社会の多くの人々に関わる事象について発言するという性格を考えれば、当然なことであろう。

一方、〈依頼〉はすべて（35）のような引用された発言に現れたものである。

（35）二千年三月二十二日夜、小渕氏は、都内の中華料理店で教育改革国民会議の事務局スタッフを集めて激励した際、「自由と規律」を全員に配布し、こう念を押した。「必ず読んで、教育のあり方を考える原点にしてほしい」（読売新聞）

（36）のような〈無意志的事態〉はわずかであった。

（36）「03 熱波」の再来は困るが、そこそこの夏にはなあってほしい。（朝日新聞）

4.6 雑誌

雑誌における「てほしい」は、上でみた知恵袋、ブログ、新聞と異なり、〈依頼〉が最も多い。また、その中でも依頼というよりも勧めに近いものが多いことが注目される。（37）～（39）に用例を挙げる。

（37）ただし、このボトルは限定だというから、早めに手に入れておくことをおすすめする。そして、ワインオタクのように後生大事に仕舞い込んだりしないで、彼女と景気よく飲み干してほしい。もちろん、寝かせておいても、存分に美味しいだろうけど、こうしたダブルネームものの醍醐味は、旬度にこそあるからだ。（Safari）

（38）わずか先の未来ですら、何が待ち受けているのかわからない、破滅と絶望に彩られた逃亡劇。そんな刺激的で斬新な「大人のファンタジー」をじっくりと堪能してほしい。（ニュータイプ）

（39）文章にすると、それまで曖昧だったことが、いきなりハッキリとした輪郭を持ったり、バラバラだったことが理路整然とまとまってきたりするからだ。そのとき、もし迷ったら、苦しんだら、これを読んでみてほしい。（COSMOPOLITAN 日本版）

〈依頼〉として数えた用例 159 例のうち 110 例が（37）～（39）のような勧めに近いものであった。このような「てほしい」は、知恵袋やブログにもみられたが、雑誌では特に多いといえる。

また、依頼らしい〈依頼〉には次のようなものがみられた。

（40）Firefox 用のテーマの例。上の標準状態の画像と見比べてほしい。テーマは、メニューの [ツール] → [テーマ] を選ぶと、テーマ変更ツールが開き、そこでテーマを選んだ

り、ダウンロードページに移動したりできる。(iINTERNET)

(41) 住居は生活の基本だ。いくらあったら、どんなところに住めるのか。二十三ページのチャートをみてほしい。懐具合によって入居先が違ってくる。お金があればあるほど、いい物件が望めるのは当然だ。(AERA)

ここで注目したいのは、(37)～(41)の「てほしい」がもつニュアンスである。(37)～(39)は読み手にとって有益な行為の勧めであり、(40)～(41)は書き手が解説のプロセスにおいて読み手に出す依頼といえるが、いずれも書き手の読み手に対する指導的な態度といったものが感じられる。

これらの文章は、扱うことがら(たとえば(37)ではワイン、(38)では映画)についての知識を提供するものであり、〈知識の格差を背景に、書き手が強い教育的姿勢と読み手への働きかけをもって書くタイプの文章〉、いわば「先生タイプ」の文章といえる(高梨2019)⁴⁾。(37)～(41)のような「てほしい」は、このような文章の性格を背景にして、勧めや依頼という読み手に対する直接的な働きかけとして用いられているものと思われる。さまざまな分野についての知識・情報の提供を機能としてもつ雑誌には「先生タイプ」の文章が多く含まれていることから、〈依頼〉(勧めも含む)の割合が高くなっているのだろう。

なお、上で見た知恵袋の回答者による勧め((21)(22))やブログにおける勧め((30)(31))が現れた文章も、書き手の態度としては「先生タイプ」だといえる。

最後に、(42)(43)に〈他者行為〉、(44)に〈無意志的事態〉の用例を挙げておく。いずれの用法についても、ほかの〈ジャンル〉にもみられるような用例であり、雑誌に特徴的な傾向はみられない。

(42) 靖国問題や憲法など、小泉首相と田中外相の姿勢は違っており、齟齬が生じるかもしれないが、彼女は彼女のやり方を通してほしい。(談)(サンデー毎日)

(43) — ジャア布施さんは。布施 やっぱり同じ日本人として吉田に勝ってほしい。でも1日に2試合はちょっとキツイかなあ。(Weekly ぴあ)

(44) 人道・人権は国境を越えて普遍性があります。拉致被害者に向ける思いを、アジア全体に広げて感じ取れる日本社会になってほしいのです。(論座)

5. おわりに

以上、話し言葉と書き言葉のコーパスにおける「てほしい」について観察してきた。重要と考えられる点を以下にまとめる。

- 1) 〈無意志的事態〉〈他者行為〉〈依頼〉の3分類において、従来、他者行為の行為者=聞き手の場合、〈依頼〉になると捉えられていたが、実際には、依頼というより勧めに近い意味で用いられているものも少なくない。

「てほしい」はどのように用いられているか（高梨）

- 2) 〈他者行為〉が実現することへの希望というより、それが実現していない現状への不満を表していると考えられるものが少なくない。
- 3) 話し言葉では、会話の場面による違いがみられるものの、総じて目の前の聞き手に対する〈依頼〉として用いられるケースは限られている。また、そのようなケースにおいて「てほしい」の直接さを緩和するために「～のだ」「～のだが」が使用されるということは実態としてあまりみられない。
- 4) 書き言葉では、〈ジャンル〉を問わず広く出現するが、その用いられ方には〈ジャンル〉ごとの特徴がみられる。新聞では、〈他者行為〉が大半であり、特に個人ではなくある属性をもつ人々の行為の実現への希望を表す場合が多い。ブログでは〈他者行為〉、特にそれが実現していない不満を表出するものが多くみられる。また、雑誌に多く、知恵袋やブログにもみられる「先生タイプ」の文章では、勧めや依頼という読み手に対する直接的な働きかけとして用いられている。

「てほしい」の核にあるのは、ある事態（〈他者行為〉や〈無意志的事態〉）が実現することへの希望である。つまり、「てほしい」は本質的には私的な感情の表出の形式である。そのため、通常、それを相手に向けて直接発することには制限がある。話し言葉であれば、目の前の聞き手に対して〈依頼〉として発して問題がないのは、相手との関係や場面などの条件がそろった時に限られる。逆に、条件がそろっていなければ、「～のだ」「～のだが」などの付加以前に、そもそも用いられないのだろう。

書き言葉においても制限があるのは同様であるが、読み手への〈依頼〉として用いることができる一つのケースとして「先生タイプ」の文章が挙げられることがわかった。

「てほしい」が個々の使用において表す意味や機能は、従来考えられていたよりも多様である。本稿で詳しく扱えなかった〈ジャンル〉における使用についても考察が必要であるが、それは今後の課題としたい。

注

- 1) 用い方のうち、「M付加」は「ものだ」などのモダリティ形式が付加されたもの、「その他付加」は「～がる」「だけ」などモダリティ形式以外のものが付加されたものを指す。なお、否定、過去、疑問にはそれぞれの形に「～のだ」などが付加された場合も含む。
- 2) 対象外となるものには、「動詞＋条件形式＋ほしい」（「見ると欲しくなる」など）、「動詞＋形式名詞＋ほしい」（「のどから手が出るほどほしい」など）があった。
- 3) ブログはYahoo! ブログ、知恵袋はYahoo! 知恵袋から採取されたものである。なお、Yahoo! 知恵袋はYahoo! JAPANが運営する、電子掲示板上で参加者同士が知識や知恵を教え合う知識検索サービスである。

- 4) 高梨 (2019) は、文章のタイプと用いられる意志表現の傾向に関連があることを指摘し、特に、書き手のみが行う行為の宣言・アナウンスとして用いられる「しよう」が教養書・実用書などの〈知識の格差を背景に、書き手が強い教育的姿勢と読み手への働きかけをもって書くタイプの文章〉に特徴的に現れることを明らかにしている。

資料

- スリーエーネットワーク (2010) 『みんなの日本語中級 I 教え方の手引き』 スリーエーネットワーク
「日本語日常会話コーパス・モニター公開版」(CEJC) <https://www2.ninjal.ac.jp/conversation/cejc.html>
「名大会話コーパス」(NUCC) <https://mmsrv.ninjal.ac.jp/nucc/>
「現日研・職場談話コーパス」(CWPC) <https://www2.ninjal.ac.jp/conversation/shokuba.html>
「現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言版」(BCCWJ) https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/

引用文献

- 工藤 浩 (2005) 「文の機能と叙法性」『國語と國文学』 82-8, pp.1-15, 東京大学国語国文学会
グループ・ジャマシイ (1998) 『教師と学習者のための日本語文法辞典』 くろしお出版
高梨信乃 (2010) 『評価のモダリティ—現代日本語における記述的研究』 くろしお出版
高梨信乃 (2019) 「〈宣言・アナウンス〉の意志表現—書き言葉における「しよう」を中心に」『日本語／日本語教育研究』 10号, pp.101-116, 日本語／日本語教育研究会
日本語記述文法研究会 (2003) 『現代日本語文法 4 モダリティ』 くろしお出版
野田春美編 (2016) 『日本語のモダリティのコーパス調査報告—『現代日本語文法』の記述の検証—』 (科学研究費研究成果報告書)
三井はるみ (2007) 「要求表現形式「～てほしい」の共通語としての定着—『方言文法全国地図』から見る—」『日本語学』 26-11, pp.102-110, 明治書院
宮川和子 (1998) 「シテホシイとシテモライタイ—シテホシイの進出・定着—」『国文学 解釈と鑑賞』 63-1, pp.41-50, 至文堂
山西正子 (2011) 「「～てほしい」と格助詞」『目白大学人文学研究』 7, pp.165-174
由井紀久子 (1995) 「シテクダサイとシテモライタイとシテホシイ—依頼を表す用法—」『日本語類義表現の文法 (上)』, pp.220-225, くろしお出版
米澤昌子 (2015) 「「てほしい」と「てもらいたい」の使用について—新聞における用例からの一考察—」『同志社日本語研究』 19, pp.46-58